

新学校点描

今週から授業がスタートしました。それぞれの教科の魅力を話して欲しいと先生方に語っています

《K中学校》

NO. 1 R3. 4. 13

担当：校長

4月7日（水）より、いよいよ令和3年度がスタートしました。午前中は、新2、3年生を体育館に集めて新任式と始業式、午後は新1年生の入学式です。ステージ上の新しい6名の先生方に向けて、M・Aさんが生徒代表のあいさつを行いました。途中、マイクの調子が悪く、マイク交換がありました。その間、梓さんは原稿を読み上げるのを止めてじっと立っています。N先生が走って新しいマイクと交換すると、何事もなかったかのように、再び話し始めました。ちょっとしたところに、生徒の成長とその子ならではの対応力の高さを感じずにはられません。わたしの長い話にも、2、3年生は顔を上げて聞いてくれている姿が見受けられました。

千年燈明

山寺の立石寺には、千年間、灯しつづけている燈明があるということを学校帰りに車のラジオで知りました。わたしも山寺には、数度行って、あの長い階段を上りましたが、千年燈明のことについては知りませんでした。千年間絶えず灯をともしつづけているほど、大変大切に扱われている“絶やしてはいけない火”です。その火は、その昔、比叡山の延暦寺から分火されたものでした。ある時、織田信長が、比叡山の焼き討ちをした際、延暦寺の火が消えてしまい、この山寺の灯をもっていったんだそうです。



4月は、家に着いてやっと一息です。きっと、生徒達もそうでしょう。新しいクラス、新しい人間関係の中で生活しているのです。本人は気づいていなくとも、心は必ず疲れているものです。もう昔の話になりますが、今は成人した長男がまだ小学生の今時分に、こんなことを言ったことを覚えていています。

「今日ね、学級委員に立候補したんだよ。」

ずいぶん思い切ったことをしたもんだと思いました。「でもね、落ちたんだ。」と長男が楽しみにしていたテレビを見ながら話します。横顔からはわかりませんが、「やっぱり本人には、ショックだったんじゃないかなー。」と着替えながら考えたことを思い出しました。こんな時、親はなんと言っておけばいいのでしょうか？

本日は、生徒会の認証式を行いました。多目的ホールで認証状を生徒会役員に授与し、その模様を各教室にリモートで配信します。12日までには、各学

級の中で生徒会の専門部に入る生徒を決めてもらいます。生徒会専門部に入らない生徒であっても、各学級が日常生活をスムーズに行うためのさまざまな“係り”になってもらうことになります。こうやって、集団の中で生活するためには、一人一人が何かしらの役割を持つことの必然性を理解してもらうわけです。

お子さんは一体どんな役割を担うことになったのか、是非聞いてあげてください。立候補してなった役割もあれば、自分の本意でなくて引き受けた役割もあるでしょう。どんな気持ちでその役を受けたのかを知ると、その生徒の心の奥にある本音に近づくことができるかもしれません。

もう20数年前の話に戻ります。

わが子の落選について、父として、何か励まそうと思ったんですが、「気落ちしないでがんばれ」なんて励ましても効果がないことは親なら誰でも知っています。実は、わたしは、中学生の時、生徒会長に立候補したんです。そして、見事に落選。勇気を振りしぼって立候補しての落選の気持ち、それはわたしにもわかります。こんな時は、励ましよりもいっしょに、残念がるほうが実は嬉しかったりするんじゃないかなって思いました。

「実はね、父さんも中学校の時、立候補して落ちたんだ。」と話しました。

長男は、はじめてテレビからこちらに顔を向けました。そして、「どんな気持ちだった？」って尋ねたのです。

「そりゃあ、めっちゃくちゃ悲しかったぞ。」とわたし。

「ふーん。」何かわかったようなわからないような、返事が返ってきましたね。

人の心に火を灯すという作業は、大変なことです。人の心には、たくさんのともし火の火種があります。その火種を絶やさないように火を灯しつつやるのは、やはり周囲の大人の温かいまなざしや言葉がけなんでしょう。

千年燈明の火には及びませんが、せめてその子がしっかり自立していけるまでは、火を灯しつつやりたいたいものです。

「実はね、僕、家の人みんながびっくりするかな一って思って、立候補したんだよ。」

わたしの挫折の経験談のあとに来たのは、心の奥に灯ってある、わが子の本音でした。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。